

神奈川県産業廃棄物総合実態調査票(その2)

対象事業者（建設業）

記入例

⑧の回答による分岐（エクセルで入力される場合、⑦を入力いただくとその後の設問でご回答いただきたい箇所が着色しますので、着色箇所に関してご回答をお願いします。）

S 1：処理業者の処分場で直接埋立処分した（中間処理を経由しない）	⇒⑩⑪を回答
S 2：処理業者で直接海洋投入処分した（中間処理を経由しない）	⇒⑩⑪を回答
S 3：処理業者に中間処理（資源化、リサイクルを含む）を委託した	⇒⑨～⑫及び再生利用している場合は⑬を回答
S 4：廃品回収（資源）業者（専ら業者等）で処理した	⇒⑨～⑬を回答
Q 1：自社の処分場で埋立処分した	⇒⑪を回答
Q 2：売却できるものを自社で再利用した	⇒⑬を回答
Q 3：売却できないものを自社で再利用した	⇒⑬を回答
Q 4：売却（利益があった）した	⇒⑩⑪⑬を回答
Q 5：自社で保管している	⇒以降回答不要
R 1：市町村の処分場で埋立処分した	⇒⑩⑪を回答
R 2：市町村の清掃工場で処理した（ごみ収集に出すことも含む）	⇒⑨～⑫及び再生利用している場合は⑬を回答
R 3：市町村の清掃工場でリサイクルした	⇒⑨～⑬を回答
Z 1：農地等の嵩上げ材として処分した	⇒⑨～⑫及び再生利用している場合は⑬を回答
Z 2：知人の所有地で処分した	⇒⑨～⑫及び再生利用している場合は⑬を回答
Z 3：農地・河川敷・山林で処分した	⇒⑨～⑫及び再生利用している場合は⑬を回答
Z 4：納入業者等に取り戻してもらった	⇒⑩を回答
Z 5：その他	⇒その他の回答内容に応じて

ブロック1 (廃棄物の発生状況)						ブロック2 (自己処理状況)								ブロック3 (発生した廃棄物の処理方法)															
	①廃棄物の名称	②廃棄物の分類番号	③廃棄物の発生場所 (工事場所)	③年間発生量		④処分方法記号				⑤処理後の名称		⑥中間処理後量		⑦処理・処分の方法		⑧処分方法記号					⑨処理・処分先又は再生利用先の名称	⑩処理・処分先又は再生利用先の所在地		⑪中間処理後の処分方法	⑫資源化用途番号				
				単位		1次処理	2次処理	3次処理	その他の内容	処理後物が廃棄物の場合	処理後物が有価物の場合	単位				その他の内容	1次処理	2次処理	3次処理	その他の内容		都道府県	市町村		その他の内容				
説明	選択リスト1から該当するものを選んでください。		工事を行った神奈川県内の市町村名を記入してください。	発生量を記入してください。	単位	選択リスト2から該当するものを選んでください。	自由記載	選択リスト1から該当するものを選んでください。	選択リスト3から該当するものを選んでください。	処理後の量を記入してください。	単位			選択リスト4から該当するものを選んでください。	自由記載	選択リスト2から該当するものを選んでください。	自由記載	名称を記入してください。	都道府県名を記入してください。	市町村名を記入してください。	選択リスト5から該当するものを選んでください。	選択リスト3から該当するものを選んでください。	自由記載						
事例：A	鉄くず	1201	川崎市	20	t													㈱△△産業	埼玉県			R10：鉄鋼原料							
事例：B	木くず	0800	横浜市	30	t													〇〇商店	神奈川県	川崎市	1. 再生利用・リサイクルしている。	R30：【プラ以外】燃料（ガス化・油化等による燃料としての再生）							
事例：C	プラスチック製品くず	0614	横浜須賀市	5	t													㈱××	神奈川県	相模原市	2. 埋立処分している。								
事例：D	無機性汚泥	0221	三浦市	600	t	B：脱水			無機性汚泥		100	t						〇〇㈱	神奈川県	横浜市									
事例：E	コンクリート片	1510	相模原市	40	t													□□興業㈱	宮城県										
	コンクリート片	1510	相模原市	80	t													△△㈱	神奈川県	南足柄市	1. 再生利用・リサイクルしている。	R50：土木・建設資材							
7																													
8																													
9																													
事例：A ・川崎市の工事現場から鉄筋くずが年間20t発生したが、すべて、埼玉県の㈱△△産業に売却した。 ・相手先では、鉄鋼原料として再生利用していた。						事例：B ・横浜市の工事現場から、建設木くずが年間に2t車で30台分（すべて満杯）発生した。 ・1台当たりの重量が1t程度であるため、重量に換算すると、30tである。 ・これは、川崎市にある〇〇商店に料金を払って処理を委託した。 ・相手先では、破砕チップ化し、燃料として再生利用している。						事例：C ・横浜市の工事現場からプラスチックくずが、5t発生した。 ・これは、相模原市の㈱××に処理を委託した。 ・委託先では焼却処理し、横浜市内の最終処分場で埋立処分している。						事例：D ・三浦市の工事現場からベントナイト汚泥が発生したが、すべて工事現場内で脱水した。 ・脱水後の汚泥量は、100t（含水率70%）であった。 ・脱水前の量は、計量していないので正確でないが、脱水前の含水率が95%であるため計算すると600tとなる。 ＜計算式＞ 100t×（100－70）÷（100－95）＝600t ・処理後の汚泥は、横浜市に管理型処分地を保有する〇〇㈱で処分した。（運搬は㈱◎◎であるが記載しない。）						事例：E ・相模原市の工事現場からコンクリートのがれき等が10tダンブで12台分発生した。重量に換算すると、120t程度である。 ・このうち、40tは、県内の業者より処理コストが低いことから宮城県に処分場を保有する□□興業（株）で埋立処分した。（運搬は㈱□□であるが記載しない。） ・残りの80tは、南足柄市に破砕プラントを保有する△△㈱に中間処理を委託した。△△㈱では破砕→分級後、土木・建設資材として再生利用している。					